

Nara
Women's
University

Today

国立大学法人化の2年目に当って -3つのSを目標に-



平成16年4月1日、国立大学法人法に基づき、全国すべての国立大学と同様に本学も国立大学法人奈良女子大学として新たなスタートを切りました。昨年度の1年間は新たな制度への切替えを行いました。中期目標・中期計画に従った年度計画を策定し、管理運営組織を新たな体制に移行させ、外部有識者の方々の参画を得て大学運営を進めることになりました。委員会を中心とする組織をより機動的な「室」組織へ変革し、財務制度、人事制度、施設マネジメントなど大学の基盤をなすおよそ全ての制度の変革を行いました。

このように制度としての枠組みは整いつつありますが最大の問題は我々大学人の意識改革をどのように進めるのかということです。年の初めに今年は【3つのS】を目標にしたいと宣言いたしました。Speed, Steadiness, Strategy【速さ、着実性、戦略性】の3Sということです。はじめの2つのSは多少矛盾しているかもしれません。改革のスピードを上げたいこと、しか

し拙速となることなく着実に進みたいこと、またこれまで以上に諸活動に「狙い」を持って取り組みたいことなどであります。

また、大学の諸活動において対外連携を強化したいと考えています。同窓会との連携、社会連携、産学官連携、国際連携など様々な形での対外連携を強化し、人的ネットワークの拡充を図りたいこと、それと同時に、これらの対外連携活動と大学における「教育」「研究」活動を有機的に結び付け、これまでは研究面での産学官連携が中心の対外連携を、教育を含めた大学全体の活動に関わらせたいと考えています。

さて、国立大学は昨春一斉に国立大学法人としてスタートし、走り始めたところです。今年から各大学はその特色を活かしながらさまざまな方向性を模索することになり、いずれその真価が問われることとなります。気を引き締めて3Sで進もうと考えています。関係の皆様方には今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

学長 久米 健次

平成17年度 新役員紹介

●役員会

学長	久米 健次
理事(企画・研究担当)	清水 哲郎 (奈良女子大学副学長)
理事(教育・学生支援担当)	井上 裕正 (奈良女子大学副学長)
理事(管理運営担当)	欠 員
理事(非常勤)	望月 和子 (大阪大学名誉教授)

●監事(2名)

業務監査担当	岡 秀松氏(大阪ガス株式会社参与)
会計監査担当	上野 祐子氏 (株式会社マーケティングダイナミックス研究所代表取締役)

●経営協議会委員(10名)

学長	久米 健次
理事(企画・研究担当)	清水 哲郎
理事(教育・学生支援担当)	井上 裕正
理事(管理運営担当)	欠 員
理事(非常勤)	望月 和子
(学外有識者(五十音順))	
志水 義文氏	(大阪地方裁判所民事調停委員、摂南大学法学部客員教授)

田代 和氏

(近畿日本鉄道株式会社相談役)

中津井 泉氏

(株式会社リクルート「カレッジマネジメント」編集長)

中西 進氏

(京都市立芸術大学学長、奈良県立万葉文化館長)

鷲塚 泰光氏

(元独立行政法人国立博物館理事、元奈良国立博物館長)

●教育研究評議会評議員(18名)

学長	久米 健次
理事(企画・研究担当)	清水 哲郎
理事(教育・学生支援担当)	井上 裕正
理事(管理運営担当)	欠 員
文学部長	奥村 悦三
理学部長	野口 誠之
生活環境学部長	上野 邦一
人間文化研究科長	矢野 重信
附属図書館長	的場 輝佳
附属学校部長	水上 戴子
教授(文学部選出)	森岡 正芳
教授(文学部選出)	出田 和久
教授(理学部選出)	池原 健二
教授(理学部選出)	富崎 松代
教授(生活環境学部選出)	磯田 則生
教授(生活環境学部選出)	磯田 勝相
教授(人間文化研究科選出)	小城 本幸
教授(人間文化研究科選出)	坂本 信子

コラボレーションセンター(研究棟)の建設始まる

—社会に開かれた建物へ—

今年の4月からコラボレーションセンター(研究棟)の建設が、本部管理棟の東側で始まりました。鉄筋コンクリート造、3階建て、2,600㎡(各階約850㎡)の建物で、管理棟とは各階渡り廊下で接続されます。本年11月末に完成、12月から共用開始の予定であり、共生科学研究センターの実験室、生涯学習関係の諸室、産学官連携関係の諸室や研究協力課が入居し、主に対外的な社会貢献活動の拠点として活用されることとなっています。



工事の様子



完成予想図

21世紀COEプログラム

—ホームページ開設—

昨年末、文部科学省「21世紀COEプログラム(革新的な学術分野)」に本学の「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」が選定されたことはすでにお知らせしていますが、今年4月に、事業概要、



活動状況と成果などの情報を発信するホームページが開設されました。活動状況と成果では、シンポジウム・研究会、調査、研究成果、ニュースレターなどの情報を見ることができます。

特に、8月20日(土)、21日(日)には本学講堂において「古代日本の言語文化」に関連する3つの国際シンポジウム(無料、事前申込み不要)が開催されますので多数の方々の参加を期待いたします。(http://koto.nara-wu.ac.jp/coe/)

(HP掲載の写真については、奈良文化財研究所及び東大寺より転載許可済)

NPO法人地域支援研究フォーラムなら

5月28日に「NPO法人地域支援研究フォーラムなら」を結成しました。このNPOは奈良女子大学生生活環境学部の教員、大学院生が中心になって設立したもので、理事長は前生活環境学部長西村一朗先生(現名誉教授、平安女学院大学教授)です。

最近、様々な地域諸団体から大学に対して専門的アドバイス、人材派遣等の要請が来ています。大学としてもできるだけ積極的に応えています。より機動的に対応するため、今回、NPO法人を設立しました。このNPOは、奈良県下を中心に、まちづくり、地域活性化、各種イベントなどを、地域諸団

体と共にとりくみ、地域社会の改善に貢献することを目的としています。

結成したばかりですが、ご支援のほどよろしくお祈りいたします。

(人間文化研究科助教授 中山 徹)



NPO発会式

社会連携担当教授着任

鍛治 幹雄 教授

2月1日付で社会連携担当の教授として着任しました。国立大学も法人化に伴い、より自主独立した運営がせまられる中、社会連携という大学の新しい課題に取り組む事となり責任の重さを感じています。



福沢諭吉は「一国の独立は一身にあり。一身の独立は学問にあり。」との言葉を残しています。学問の場である大学において一人一人が社会ときちんと連携を取り自立していくことは日本の将来に大切なことと思います。

社会連携の範囲は大変広いものであり、一人の力で出来るものではありません。学内はもとより卒業生や学生の保護者等の皆様とも力をあわせ、奈良女子大学の歴史や特長を生かした仕事をしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお祈りいたします。

「奈良女子大学研究紹介集・シーズ集2004」発刊

産学官連携推進室では、このたび「奈良女子大学研究紹介集・シーズ集2004」を装いも新たに刊行いたしました。

2002年にVol.1が発刊されて以来3代目になります。今回のものは、薄型化に成功し、本学教員

の研究活動の概要が分かりやすく記載されています。ご希望の方には、郵送料のみ実費にて送付させていただきます。産学官連携推進室までお申し出ください。(0742-20-3734)

さて、産学官連携推進室では毎週一回、メールマガジンにて大学の素顔をみなさまにお伝えしております。配信ご希望の方は、下記ホームページより登録ください。

http://www.nara-wu.ac.jp/kenkyou/e-magazine/mail_magazine.html



公開講座のご案内 - 11講座を開設 -

平成17年度は下記のとおり11件の公開講座を開設しています。すべて無料です。詳しくは本学ホームページをご覧ください。
(<http://koto.nara-wu.ac.jp/lle/info4.html>)

講座名	開催日時	受講対象
生涯学習と大学	6/25(土) 14時～15時30分	一般200人
初心者のための情報セキュリティ講習会	7/16(土) 9時～15時	一般50人
教職員のための夏の公開講座	8/ 1(月) 13時～16時30分	教員40人
数学へようこそ	8/18(木)・19(金) 10時～16時	一般、教員100人
パソコン活用講座～プレゼンテーション～	8/21(日) 10時～16時	一般、教員50人
パソコン活用講座～文書・表計算～	8/27(土)・28(日) 10時～16時	一般20人
共生と寄生 -生物同士の様々な関係-	8/27(土) 10時～17時	一般40人
遊ぶところ・遊べるからだ -新しい健康スポーツを求めて-	8/27(土)・9/ 3(土) 10時～16時30分	一般、教員50人
生活と健康	9/24(土)・10/1(土) 10時～15時	一般50人
はじめての画像編集	10/ 2(日) 10時～16時	一般20人
宇宙の中のミクロの世界	10/ 2(日) 13時～16時15分	一般、教員、高校生50人

地域貢献特別支援事業が成功裏に終了

本学は、平成15・16年度に、奈良の豊かな文化・歴史遺産と自然を活かした「明日の奈良づくり」を基本コンセプトとして、奈良県、奈良市との連携の下に10の地域貢献特別支援事業を実施してまいりました。「万葉故地の確定・データ化と歴史的景観再現事業」、「奈良町の町並み保全・活用支援事業」、「地域女性リーダー育成事業」、「健康なら21Stepアップ事業」、「奈良地域歴史的な文化財デジタルアーカイブ」、「水資源及び生物資源の保全を基礎とした農山村活性化事業」、「たばこ分野における健康なら21推進事業」、「子ども学プロジェクト」、「奈良を理科・数学(算数)大好き日本一に」及び「産研学交流連携推進事業」がその10事業です。昨年末に、それら支援事業を総括する意味で、「明日の奈良づくりを目指して-奈良女子大学と地域貢献-」のテーマで講演会が本学記念館講堂で開催され、一般市民及び自治体関係者が多数参加され、本学の地域貢献事業への期待の大きさが感じられるものとなりました。



講演会の様子

平成17年春の記念館一般公開

本学では、平成6年(1994年)12月27日に守衛室(附 正門)とともに国の重要文化財に指定されたことを受け、平成9年(1997年)から、毎年春と秋の2回記念館一般公開(入館無料)を開催しています。今年はゴールデンウィーク中の4月29日(金)から5月5日(木)までの7日間にわたり開催され、期間中1,341名の来館者がありました。



池田 小菊

記念館一般公開は、重要文化財に対する理解と認識を得るとともに、開かれた大学として地域との連携を深めることを目指し、さらに、本学所蔵の貴重な資料等を展示・公開することにより地域文化の発展・向上に寄与することを目的としています。

今回は特別展示として、「池田小菊の奈良 志賀直哉に師事した女性教育者」として本学にゆかりのある女性教育者でもあり小説家、女性活動家としても活躍した池田小菊の資料を展示し、ゴールデンウィークの奈良散策に訪れた人々で賑わいました。



満足度No.1の奈良女子大学生協

全国大学生生活協同組合連合会の月刊誌UNIV.CO-OP2004.7に、満足度No.1の生協として奈良女子大学生協が紹介されています。同連合会実施の「第39回学生生活実態調査」(昨年10月実施の第40回調査には参加せず)によれば、「現在の生協について」の満足度で「満足」と答えた学生は全国平均では9.2%なのに対し、奈良女子大学では26.9%と圧倒的に高く、奈良女子大学が見事第1位にランクされたことから、その背景を探った記事が掲載されたものです。学生の「お母さん」を目指すとのコンセプトの下、学生ニーズを反映した店舗活動及び食堂サービスが高く評価されたものと考えられます。大学生協が福利厚生面で学生生活に果たす役割は大きく、今後より一層の活動が期待されます。

第11回「在学生と卒業生との集い」を開催

- 社団法人佐保会主催 -

5月13日(金)午後4時30分から本学産学官連携推進室コーディネーターの藤野千代氏をプレゼンターとしてE261室で「在学生と卒業生との集い」が開催されました。「奈良女子大学活用のススメ」というタイトルで、ご家族のこと、職歴紹介から変革期の大学、そして未来につなげるために本学がおかれた今日的課題についても興味深い内容の話をしてくださいました。諸先輩方の辛辣な質問や大学のUI(ユニバーシティ・アイデンティティ)論まで幅広い議論展開となり、有意義な時間となりました。

アフガニスタン女子教育支援

－平成17年冬の女性教員研修報告－

「アフガニスタン女子教育支援のための五女子大学コンソーシアム」(お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学)では、アフガニスタン人によるアフガニスタン女子教育のグランドデザイン策定を支援することを目標に、JICAの協力を得て、1月上旬から2月上旬まで、アフガニスタンから女性教員15名を招き、女性教育リーダーを育てるための第3期来日研修を実施しました。

本学では2月3日(木)から2月7日(月)までの研修を担当しました。

第1日目は、奈良県庁への表敬訪問の後、本学における研修開講式・ガイダンスを行い、午後は「食生活の改善と女性の社会的役割」をテーマとしたワークショップなどが行われました。

第2日目は、山村の公立小学校である奈良市立大柳生小学校を訪問し、地域の人たちと小学生との交流学習を見学の後、給食を体験し、午後は「地域社会の中の学校」をテーマに講義が行われました。

第3日目は、東大寺を見学し、伝統文化の承継と発展及び平和について考察しながら、午後は2つのグループに別れて市内見学や本学附属中等教育学校におけるNIMEビデオ研修を行いました。

第4日目(最終日)は、本学附属小学校及び中等教育学校において、初等教育及び中等教育における総合学習を見学、説明を受け、それぞれ質疑応答が行われました。

研修期間中は、研修員から様々な質問や意見が出され、以前にも増して積極的な態度が印象的でした。送別会では、本学研修実施委員会委員長である岩崎雅美教授の挨拶に続き、研修員の代表者から「奈良女子大学関係者の親切なふるまいや礼儀に感激しました。歴史ある美しい奈良のまちでの研修



本学記念館前で記念撮影をする参加者と本学関係者

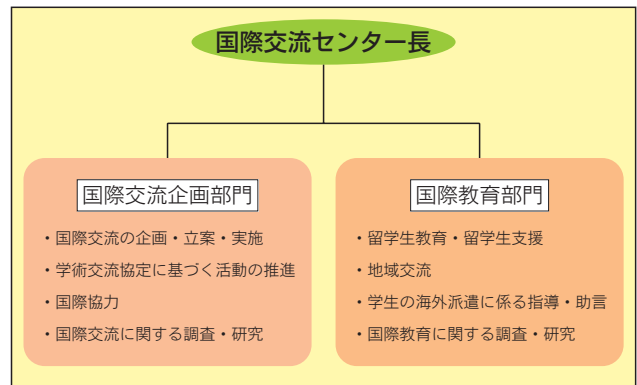
は一生の思い出です。生きている限り忘れません。ここで学んだこと経験したことをアフガニスタンで実践してゆきたい。」と感想が述べられました。



顕微鏡を用いての細胞観察
(附属中等教育学校)

国際交流センター設置

本学の基本理念の一つである「開かれた大学—国際交流の推進と地域・社会への貢献—」を具現化するため、その中心的役割を担う組織として2月28日に国際交流センターを設置しました。本センターは、国際的な連携の推進及び国際的な大学間等交流の促進並びに外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対する必要な教育及び指導助言等に関する施策を策定する等、本学における国際交流の推進に寄与することを目的としています。



国際交流基金による奨学金を受けて

今谷 篤子 さん

(人間文化研究科言語文化学専攻博士前期課程1回生)

留学先：クィーンマーガレット・ユニバーシティコレッジ
(イギリス)

留学期間：平成15年9月～平成16年5月

スコットランドでの留学から帰ってきて1年近くが経ちました。その1年の間に学部を卒業し、今は大学院で勉強しています。異なる文化の中で生活したことで視野が広がり、価値観も大きく変わりました。もちろん、英語を読み書き聞き話す力もかなり伸びたと実感しています。

大学が所在するエディンバラという街は英国の北部に位置し、スコットランド地方の首都です。映画になっている小説のハリーポッターが生まれた街でもあります。留学生活のはじめのうちはスコットランド英語独特のなまりに驚き悩まされましたが、少しずつ慣れ、授業の方もクラスメートや先生方の助けを借りて乗り切ることができました。英語力以外にも、考え方や価値観、友人など、この留学中に得た全てのこと現在の生活や勉強に大きな影響を与えています。

在学生の皆さんも積極性と強い意志で留学を実現させて下さい。人間的にも成長する貴重なチャンスとなります。

留学に際しての費用は、生活費や住居費に加えて教材など少しずつのものが積み重なり大きな負担となっていました。留学直前に国際交流基金の奨学金を受けることができたことにより、その負担も軽くなり、心も軽くなって出発することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。